

提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉

新しい三河安城駅

〈提案の趣旨〉

今回のアリーナ建設において利用者が増加し、人と車両が入り乱れることによる交通渋滞やアリーナをメインで使っていくシーホース三河とまちがどの様にかかわっていくのが大きな課題になると考え、人と車両が接触しないスムーズな移動ができる空間のデザイン、シーホース三河、ひいてはバスケットボールに関心を集める目的の空間デザインを提案する。

○スムーズな移動ができる空間デザイン

- JRの駅と新幹線の駅、アリーナに直結するペDESTリアンデッキを人のメインの移動空間とし、これによって利用者数が減少する車道横の歩道の縮小と可能な範囲での車道の拡幅を行うことで利用者増加に伴う交通渋滞を立体的に解消する狙いがある。
- 広場の上に円状の通路を作り、新幹線の線路に沿う形で作ることを計画しており、これはロータリーが近く、バスの出入りがある新幹線の駅側の歩行者により多くデッキを利用してもらう狙いと、JRの駅の改札が2階にあるため、わざわざ降りて信号を待つなどするよりも利便性が高いと判断したためである。
- アリーナの周りには道路は時計回りに一方通行とすることで既存の道路幅でスムーズに車が流れることができるシステムにすることで交通渋滞のさらなる緩和を目的とする。
- 既存のロータリーは今までと同様バスの出入りをメインとしたものとして利用する。
- JRの駅と新幹線の駅の間には既存の連絡通路があるが、こちらは普段利用している方が混雑を避けるなどの目的のために残す方針としている。

○シーホース三河・バスケットボール

- 駅前広場の地面にプロジェクターでその日の対戦相手のマスコットとバスケットで対決しているショートムービーなどを投影することで移動空間ではなくなったという点を逆に利用することができる。また、その日のアリーナの使用用途に合ったムービーを流すこともできるので、通りがかった人の興味を引き寄せることもできる。まち全体としてアリーナを注目していけるような空間をイメージする。
- アリーナ予定地のすぐ横から新幹線の線路の下を歩いていける場所にあるツインパークが平日に現地を見に行った所感としてイベント以外ではあまり利用されていないように見て取れたので、ストリートバスケットができるエリアを設けることで普段の利用者も増え、シーホース三河の試合の日にバスケットのミニイベントなどもできるのではないかと考える。